

I 学校の概要

学習意欲向上モデル校事業 綾川町立昭和小学校

◆児童数及び教員数

○児童数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
1学級 31名	1学級 31名	2学級 43名	2学級 36名	1学級 35名	2学級 39名	4学級 7名	13学級 222名

○教員数 19名

◆学校の特色

本校の児童は、明るく素直で、約束事や教師の指示をよく守ることができる。異学年同士の交流においても上級生が下級生のお世話を進んでする傾向にある。しかし、主体性という面では、課題があり、主体的に学習に取り組む児童が多いとは言えない。また、「自分にはよいところがあると思うか」という昨年度の県学習状況調査の質問紙では、思う(26.8%)どちらかといえば思う(31.4%)と自己有用感を高めていく必要があると考えている。

保護者や地域住民は学校教育に関する関心が高く、学習や学校行事等に積極的にかかわるなど、地域とともに育つ環境が充実している。

II 研究主題等

進んで課題に取り組み 学びを深める児童の育成

—課題づくり、視覚的表現物(思考ツール等)、振り返りを核にした授業改善—

◆研究主題設定の理由

本校の児童は、授業中は教員の話をよく聞き、与えられた課題について一生懸命取り組もうとする。県学習状況調査の正答率を見ても、ほとんどの教科で県平均を上回っており、基礎的な学力はある程度身に付いていると言える。しかし、質問紙においては、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができていますか」「分からない問題があるとき、見方や考え方を変えながら、あきらめずに取り組んでいますか」の項目で県平均を下回っており、自信のなさや自尊感情の低さ、自分で目標を決めて努力したり最後まで粘り強く取り組んだりする経験の少なさに課題がある。また、これらのことから、自分でどのように考えればよいのかが分からないために、途中で考えることをあきらめてしまい、受け身になってしまっている児童もいる。

そこで、主体的に学びに向かう児童を育成したい、友達と学び合う中で考えが深まっていく過程を大切に、学校で学ぶことのすばらしさを実感させたい、そして、その学びで実感した喜びを生涯学び続ける意欲につなげたいと考え、本主題を設定した。また、児童が主体的に学習に取り組み、学びを深めることができる授業の実現のために、「課題づくり」「視覚的表現物」「振り返り」の3点を核にした授業改善が有効であると考え、副主題を設定した。

◆研究内容及び方法

- 1 児童が学習への意欲や見通しをもてる課題づくり
 - ・・・授業でつくった、少し難しそうだけれど、これまで学習したことや、自分の知識や経験を使ったら解決できそうな課題についての交流
- 2 聴きたくなる、話したくなる視覚的表現物の活用
 - ・・・意欲を高め、学びを深める実践の校内研修ノートへの記録及び実践の交流
- 3 自分や友だちの成長を実感し、新たな目標につなぐ、学びの「振り返り」の活用
 - ・・・教科の特性や、発達段階に応じた「振り返り」の視点、方法の研究

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (教師質問紙) 普通の授業で、児童のつぶやきや反応を生かした課題づくりをしていますか。

指標 「①している+②どちらかといえばしている」の合計



指標の達成に向けた実践

学びへの意欲を喚起する課題づくり

児童が考えてみたいと感じる学習課題となるように、単元や1時間の導入部分を工夫した。例えば、児童一人一人が自分事として考えられるように教師がしかけをつくったり、課題の文末表現を学びのゴールがはっきりと分かるように設定したりした。

児童の「～たい」という気持ちを大切に、課題が明確で、見通しをもてる学習課題となるように、日々の授業で実践する中で、次の4つのタイプが見えてきた。

学習課題4つの型

その1 「？」型

そうたさんが自分の意見を言うためには、何が必要だろうか。
(4年道徳)

課題とまとめとの整合性がある
→ 目的意識がもてる

その2 「追究・発見」型

迷い犬を探してあげたい。何をどんなふうにメモするとよいのか。
(2年国語科)

子どもの願い+内容のポイント
→ 追究心の向上

その3 「数字・ゲーム」型

びっくりヘチマ。茎の長さ、葉の枚数や大きさはどれだけ成長しているだろう。
(4年理科)

数字を意識できる内容
→ わくわく感

その4 「立場」型

作者が二人のしんしの顔をもどさなかったことに賛成か、反対か。
(5年国語科)

立場が明確にできる
→ 話し合いが活発、深い学び

2 (児童質問紙) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができますか。

指標 「①できている+②どちらかといえはできている」の合計



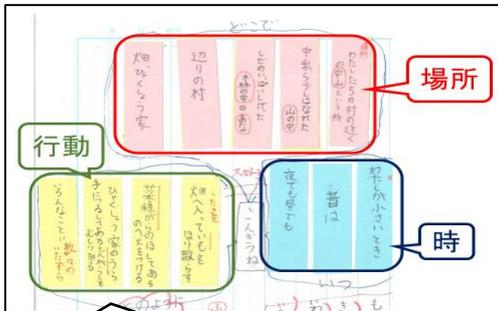
指標の達成に向けた実践

視覚的表現物の活用

自分の考えをもつ段階や、まとめ、振り返りの段階において、考えを視覚的に整理したり、友だちの考えをききたいと、交流しようとする意欲を高めたりできるように、視覚的表現物（付箋紙、思考ツール、ICT機器等）を活用した。学び合いを通して、考えが強化されたり、新たな視点や考え方に気付いたりするなど、学ぶ意欲を持続させ、深い学びへとつなげられるようにした。

〈4年国語科〉

【児童のノート】



3色の付箋紙と、人物マップを活用することで、違いを整理しやすく、人物像について考えやすくなった。

〈3年体育科〉

【友だちの動きをチェックする児童】



タブレット端末を使って互いの動きを確認することで、技のポイントに気付きやすくなり、自分の課題を解決しようとする意欲につながった。

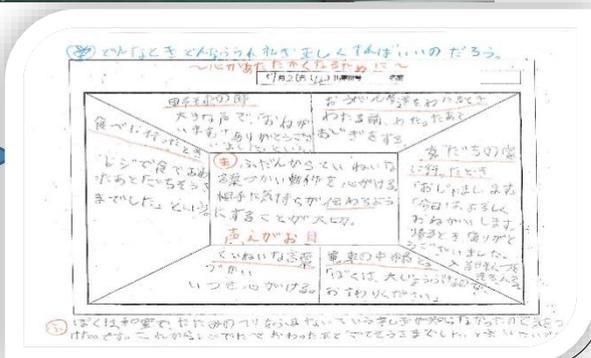
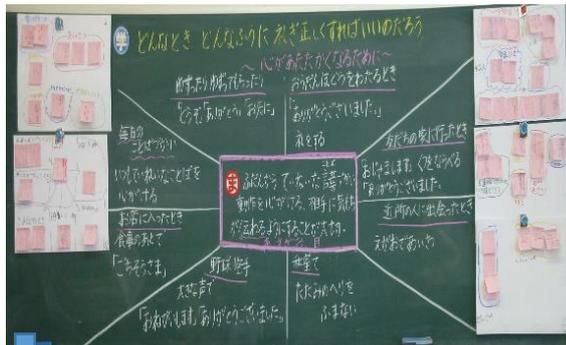
〈4年道徳〉

【児童の交流場面】



KJ法を活用することで、互いの考えを比べたりつないだりしやすくなり、新たな視点や考え方への気付きにつながった。その後、全体交流では、コアマトリクスを使った板書でまとめ、多面的・多角的思考につないだ。
児童は、板書に表れた様々な考えの中から、自分に取り入れたいものを、ワークシートにまとめるなど、考えを再構築する姿が見られた。

【板書】



3 (児童質問紙) 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①思う+②どちらかといえば思う」の合計



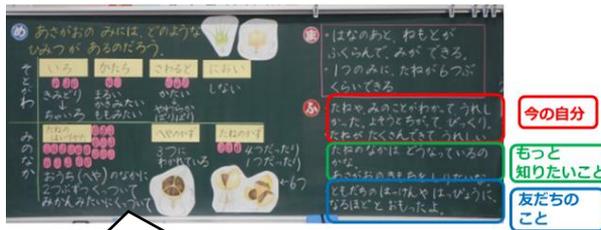
指標の達成に向けた実践

振り返る活動の充実

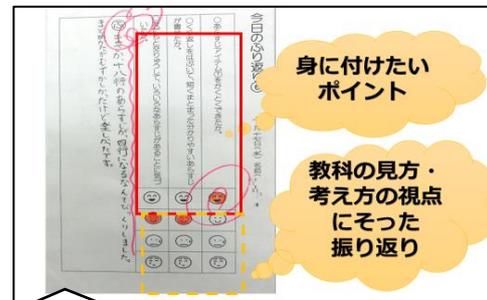
振り返りを、自分の成長を実感し、次時へとつなげていくもの、つまり学習意欲の源であると考えた。児童の発達段階や、教科の特性に応じた方法で学びを振り返るようにした。また、学ぶ達成感を味わったり、次の学びへの意欲を高めたりすることができるように、振り返る視点についても研究を行った。更に、「～たい」と児童の意識が高まっていくように、振り返る時間の設定の仕方についても工夫を行った。

(1) 振り返る視点や方法について

〈1年生生活科〉



〈3年国語科〉



振り返る際に、①自分ができるようになったこと②友だちから学んだこと③次にしたいこと、もっと知りたいことの3つの視点で行うことで、学びの達成感を味わったり、次の学びへの意欲につなげたりできるようにしている。

身に付けたい力を明確にしたうえで、教科の見方・考え方の視点に沿った振り返りを行うようにしている。視点が明確なことで、あらすじを書くためのスキルを身に付けようという気持ちが高まり、あらすじを書く学習に意欲的に取り組んでいた。

(2) 振り返る時間の設定の仕方について

時間の設定の仕方として、①毎時間、②単元のはじめとおわり、③学習過程ごとという3つの仕方が有効であると分かった。①と②の仕方のよさと課題については以下の表の通りである。一方で、1つの単元の中で、毎時間ではなく、「課題づくり」「自分の考えをもつ」「交流」「まとめ」などという学習過程のまとまりごとに振り返る③の仕方もメリットがあると感じている。

	よさ	課題
① 毎時間	・スモールステップで学びの深まりを認識 ・次の学びへの意欲	時間確保が難しい場合がある
② 単元のはじめとおわり	自分の学びの深まりや自己の大きな変容を実感	・視覚的表現物を蓄積しておく必要がある ・しっかりと見直す時間の確保



③ 学習過程ごと	・ポイントを絞った振り返りができる ・学習内容に応じて柔軟な時間設定ができる
----------	---

◆特徴的な取組

研究方法について

(1) 研究の進め方

1・6年、2・4年、3・5年ごとに部会をつくり、教材研究や、ツールタイムのワークシートの作成などを行った。また、考える子、あたたかい子、たくましい子部会の3つのプロジェクトや、教員一人一人が特に研究したいものを決めて作った研究グループとも連携し、研究を進めた。



(2) 児童の姿をもとに行う討議

研究授業後の討議では、児童の学びの姿という事実を根拠にして、意欲を高める手立て、学びを深める手立てが有効だったかという2点から考察した。授業グループごとにまず成果や、課題、改善案を出し合う。その後、更に、出た意見の中から今後の実践に生かせるポイントを絞るという2段階の討議を行い、共通理解、共通実践につながるように工夫した。

【 討議の様子 】



(3) 実践共有シート

普段から課題づくり、視覚的表現物、振り返りの3点を大切にしたい授業ができるよう、授業の実際について、1枚のシートに記録し、職員間で共有した。職員室の校内研修掲示板に毎週記録し、互いの実践から学び合えるように環境を工夫することで、これまで、意識が弱かった視点についても、意識が向上してきている。

【 校内研修の掲示板 】



(4) 研修ノート

教員一人一人が、板書ノートのような形式で、授業の足跡（児童のノート、ワークシートのコピー、板書の写真、児童の発言等）をノートに蓄積している。実践をしておの成果と課題についても記録することで、次の実践に生かせるようにしている。校内研修の交流日に見せ合い、他の教員から学ぶ機会を設けている。

【 研修ノート 】



(5) ツールタイム

児童が視覚的表現物を使って表現したり、交流したりするツールタイムを設けている。教員も児童も、様々なツールに触れることで、考えが可視化されるおもしろさや、互いの考えを表出し合う喜びを感じ、その実感を積み重ねることができている。

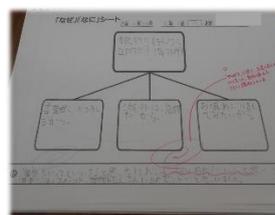
ワークシートはポートフォリオのように1冊のファイルに綴じていき、いつでも振り返ることができるようにしている。

また、ツールタイムの掲示板を設け、他の学年の学びのよさを感じ取ったりできるように環境面でも工夫を行った。

平成30年度 《日課表》

	月	火	水	木	金
8:00 ~ 8:10	朝の会				
8:10 ~ 8:30	読書	1全校朝会 2児童集会 3全校朝会 4リル		ドリル ツール タイム	チャレンジ タイム
8:30 ~ 9:15	1校時		8:10~8:55 1校時	1校時	
9:25 ~ 10:10	2校時		9:05~9:50 2校時	2校時	
10:10 ~ 10:30	業間		10:00~10:45 3校時	10:15~ 清掃	業間

【 ワークシート 】



【 ツールタイムの年間掲示 】



IV 研究の成果と課題

成果

- ・ 課題づくりを工夫することで、自分の事としての学びにつながり、学習への意欲が高まった。また、視覚的表現物を使った交流を通して、粘り強く課題に取り組んだり、友だちの意見を柔軟に受け入れたりしながら、課題の解決に向かおうとする態度が身に付いてきた。
- ・ 視点を明確にした振り返りの場を充実させることで、自分や友だちのがんばりや成長に気付き、自信をもつことにつながった。更に「～たい」と、今の自分を見つめ、次に学びたいことを見付けようとする児童が増えてきた。
- ・ 児童の気付きや疑問を大切に、課題設定→自分の考えをもつ→交流→まとめ→振り返りという主体的な学習過程となるように工夫することで、自分の考えを広げたり、深めたりする児童の姿につながった。
- ・ 3つの研究内容が複合的に関連し、児童の学ぶ楽しさにつながった。支持的風土の醸成とともに、一人一人が学級で、安心して自分の意見を言うことができるようになってきたことで、一人一人の考えが活かされる学習となった。学級における居心地のよさが、落ち着いて学習できる環境を醸成し、児童の学びにおける成長にもつながった。
- ・ 研究内容や方法を職員間で共有し、実践していく中で、互いに切磋琢磨しながら学び合うことができ、教員自身の資質・能力や学ぶ意欲の向上につながった。

課題

- ・ 学びの原動力になる「～たい」があふれる、「～たい」をつなぐ児童を更に育成していく必要がある。「? (はてな) ボックス」の取組を生かしたり、教科等横断的な視点で単元構成を行ったりする。



【 ? (はてな) ボックス 】

- ・ 解決の見通しや方法を多面的に考えようとする力を育成していく必要がある。そのために、児童自身が解決方法を話し合ったり、その際の視覚的表現物を自ら選択したりしていけるように、学習過程や学習環境を工夫していく。
- ・ 教科の特性に応じた、課題や視覚的表現物、振り返りの視点や方法について今後も研究を深めていく。また、一人一人に寄り添った指導、支援も一層大切にしていきたい。